

## 「次世代エネルギー」について 感じることに



中国生産性本部  
西川 三佐子  
(セミナープロデューサー)

私は、組織変革と人材育成を支援している団体職員です。エネルギー問題については全くの素人ですので、日頃、感じていることを「エネルギー」をキーワードに綴ってみました。

### 20世紀はモノに恵まれた時代

今、日本で生きている私達は、冷暖房のおかげで快適な温度の中で過ごし、電化製品の普及で重労働だった家事からも解放されました。また、一日三食が当たり前前の食習慣であり、食べたいと思うものは高価なものもありますが、近所のスーパーでほとんどの食料は調達できます。そして、新幹線や飛行機で短時間で移動することも叶うようになり、自家用車を持つことも当たり前前の生活となりました。

しかし、江戸幕府を築いた徳川家康が、当時、日本一の賢沢を極めても、一日で松江から東京まで移動は出来なかったし、今の私達ほど豊富なものを食べていなかったと思います。何より、電気自体が存在していませんでした。

そう考え歴史を振り返って見ると、特にこの50年あまりで、急速にモノが溢れる生活のスタイルに激変したことがよくわかります。そして、全世界を見ても、日本は大変恵まれている国だということがわかります。

### 尽きない欲

しかし、私自身、豊かになっているという実感は薄く、「もっとお金が欲しい」「もっと楽をしたい」「人よりも豊かになりたい」という欲が尽きることがありません。

私は、高度経済成長の真只中で子供時代を過ごしました。その頃は、新しいモノを買うのが当たり前前の時代でした。だから、戦後の混乱期に子供時代を過ごした母にはモノを大事にしないとよく注意をされたものです。しかし、次から次へと押し寄せる流行や商品を追い求めることを止めることができずして。

そして、ある時、かけがえのない言葉とめぐり会いました。それは、「足るを知る」という言葉でした。

確かに考えてみると、いくらバックを持っていても、結局、使うのはお気に入りの1つのバックばかりです。あのものは、クローゼットの中で眠っているだけです。どんなに靴を持っていたとしても、今、履くことができるのは1足だけです。

### “足るを知る”と心が満たされる

本当に気に入ったものだけを買って、それを大切に使う。そして、それで十分、足りていることに自分自身が気づき、今まで無駄遣いしていたお金やモノや心を、他の人のために使うということが、自分を活かすことになるのではないかなと思うようになりました。

自分が他のために役に立つ存在になるということは、人のためではなく、自分自身の存在感を満たすことにつながります。そんなとき、人は、心のエネルギーを高めることになります。実は、資源のエネルギーも大切ですが、この心のエネルギーを家族で、職場で、コミュニティーで、社会で共に高めあうことこそ、21世紀の重要なキーワードではないかと私は思っています。私は、ささやかな会費が納めているのにもかかわらず、千鳥福祉会さんの会員になり会費をお支払いするのは、その一環であり、私自身の心のエネルギーが高まるのです。

また、「足るを知る」とは、自分が恵まれていることを知るということにもつながります。これは、自分の環境が変わってなくても、自分が幸せだと感じることができず、これも心のエネルギーが高まることにつながります。

人は誰しも、大切にされたいし、人の役に立ちたいものです。人を感謝

### ○新規加入会員紹介

法人会員 (有)板垣建設様 (株)ユニコン様  
個人会員 小川 耕一様 笠間 大介様  
加納 恵子様 角田 敦志様  
中前 栄二様 野津貞恵子様

### ○後援会役員名 (敬称略)

会長 稲塚 公郎 (松江土建㈱取締役会長)  
副会長 伊藤 立身 (和幸電通㈱常務取締役)  
長嶺 幸恵  
理事 野津 瑞江 (㈱神谷鉄筋常務取締役)  
佐藤 三子 (司建設常務取締役)  
監事 岩崎光春 (クリエイティブプロダクションアドス代表取締役)  
青山まゆみ (㈱ピープル取締役)

し感謝される好循環の中に自分があると、大量の物質や食べ物だけで心を満足させようとするのとは質の違う幸せ感じることができず。

### 本物が求められる時代

そうすると、大量の商品は必要なくなるかもしれませんが、その大量の商品がいなくなるにより、限られた資源を削減することにもつながります。

しかし、心を満たす素晴らしいモノは必要です。それは今まで以上に高品質の技術や人の温かさが入っている商品・サービスだと思えます。そのためには、資源のエネルギーだけではなく、人の思いや行動のエネルギーを使うことが求められると思うのです。そして、その素晴らしい価値に適正な価格が支払われ、世の中の経済が循環するようになることが大切だと思っています。

### 心のエネルギーを高める企業

私は、以前は、商品を大量に安く早く作ることが経営の常識だと思っていました。しかし、沖縄市の中心部にある株式会社沖縄教育出版という健康食品を販売している企業を視察している時に、その考え方が大きく変わりました。その企業では、商品であるサプリメントの最終障害を知的障害のある方々も担当されています。機械に任せず、大事の一つ一つ、商品が箱詰めされていくのです。その商品は、サプリメントの栄養素だけではなく、そこに携わる方々の優しさも詰まっています。その企業は、障害のある方と健康者の方の壁もありません。知的障害のある方が他の社員に優しさの学びを与える大切な存在となっているのです。

そのサプリメントは、安売りをせず、適正な価格で売られ、働く皆さんが適正な給与と福利厚生を受けています。そして、何より、その企業が勤めることにより働くことに幸せとやりがいを感じています。

### 心と体を使うことで人は進化

私は、社会人の人材育成をお手伝いする仕事をしていますが、最近とても感じることは、考えるだけで止まってしまい行動することを躊躇している人が多いということです。

人は、感じて・考えて・表現することを反復する中で、成長し進化していくと私は思っています。

思いを込めて表現するために思いきって行動することが、私も含めてですが今の大きな課題だと思います。

人が楽をしようとするほど、機械や他人を動かそうとするようになります。すると機械は資源というエネルギーを使い、人はやらされているという窮屈感から心のエネルギーを浪費するようになります。私達の身近なことは自分自身が行なうことにより、エネルギーの無駄遣いが無くなるのではないのでしょうか。そのことは私達自身が体を使うことでもあり、表現することでもあり、そこからまた新たな感じ方が自分の中で生まれて、結果的に自分が進化・成長することにもつながります。そして、自らが行動し得たことが、本当の自分の生きる知恵になっていきます。それが、まさにバーチャルな世界から飛び出し「体感する」ということだと思えます。

その私達のエネルギー源となる食べ物についても考えてみたいと思います。私達の食生活は、食べすぎの傾向にあるそうです。そして、野菜を摂ることが健康のためには大切だと言われています。現に同じカロリーを摂取する場合、野菜より、食物連鎖の上位にある牛を育てるほうが膨大なエネルギーがかかります。そして、遠く離れた国では、飢えて亡くなっている人達がいっぱいいます。食べ物を残し廃棄している私達は、やはり、「足るを知る」ことを一人一人が考えていく必要があるのだと思います。

さらに、自分の体を使うという観点からすると、野菜を畑で少量でも良いので育ててみて、自分で料理を作ってみることは生きること直結した経験になります。そして、何より、自分の育てたものは愛おしくなり、大切に食べると思うのです。その味や満足感、今までの買って来た野菜とは大きく違うことを実感することでしょう。

### 本来の豊かさに目覚める

モノを慈しみ、人としての本来の豊かさに目覚めたとき、適切にエネルギーを使う判断力を一人一人が持てるようになるのだと思います。そして、その一段高い視点に立ちエネルギーのあり様を見つめたとき、その視点からしか気づけない新たな展開を直感できるようになるのだと思います。



## 話題の共有

千鳥福祉会 理事長 山本 昌子

今回の後援会便りは、このたびの投機による経済危機の引き金となったエネルギーについて皆さんと共に考える機会を持てたらと座談会をお願いし、掲載することになりました。エネルギー資源に関する研究は、原子力・石油・天然ガス・太陽熱・風力・波・地熱・水素・マグネシウムなどそれぞれの国が自国の将来をかけて進めているようです。先ごろ紹介を頂いて石炭森林組合の三浦組合長さんとお会いすることがありました。浜田に、風力発電をとご尽力なさっていました。また、「森林がCO<sub>2</sub>削減に貢献する」「CO<sub>2</sub>排出権にかかる山の単価を決めたい」などの情報をいただきました。今後も後援会の皆様と共通の話題がどんどん深まることを大切にしていきたいと考えます。

## Support News

# 後援会便り

## 社会福祉法人 千鳥福祉会

〒690-0814 松江江市東持田町1415  
TEL.0852-24-8820 FAX.0852-24-8825  
ホームページ: http://www9.ocn.ne.jp/~chidori  
メールアドレス: chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp

2009年5月20日 No.16

## ホーランエンヤの魅力



千鳥福祉会後援会 会長  
稲塚 公郎  
(松江土建株式会社取締役会長)

今年は12年に一度開催されるホーランエンヤの年である。360年の歴史を有するこのお祭りは、日本各地に残る数少ない船神事の中でも、その豪華さや絢爛たる事において最大級のものであると思われる。水に彩られた城下町松江や東出雲には、全国から多くの人が集まり、勇壮で情緒あふれる船神事の大イベントが繰り広げられてきた。

起源は松平家初代藩主直政公が1648年に天候不良を憂い、自身が信仰していた松江城山稲荷神社のご神霊を、東出雲の阿太加夜神社まで船でお運びし、五穀よく稔り災いなく、世の中が安らかである事を願って行われたのが始まりであるようだ。

このお祭りの見所は実に多い。地元5地区から出される権伝馬船(かいでんせん)を中心に、色とりどりに飾られた100隻に及び船の行列は実に壮観である。威勢のいいホーランエンヤの掛け声と見事な権さばき、船首で堂々見えを切る歌舞伎姿の剣権(けんが)の若者の勇壮な姿、それを受けて船尾で艶かしく踊る女装した采振(さいひり)の美しい姿など、大橋川兩岸に群がる大勢の見物人を楽しませてくれる。

衣装や小道具は京都や大阪に別注された本格的な立派なものである。50~60人が乗り込む狭い船の中では、それぞれの役割が決められ整然と運行される。船長役の伝馬長、唄声の名人が務める音頭取、

船先(へさき)に陣取る水先案内人、舵取り役の練權(ねりがい)などのほか、可愛らしいのが女の子の衣装で着飾った男の子たちである。懸命に太鼓を打ち鳴らしたり、「招待」或いは「引き」と呼ばれる馬場地区の船にだけあるグループは、観客に笑顔で愛嬌を振りまくのが役目だそうである。

1808年に風雨でご神輿船が危険になったのを馬場地区の漁師が救い、無事阿太加夜神社までお届けしたのが縁で、権伝馬船がご神輿船を曳くようになり、以降他の地区も参加するようになった。当時の人々は何分にも神様のお通りであるから、清めたりお護りしたり奉仕するのは当然の事、唄ったり踊ったり衣装を整えたりして楽しみながら世の平穩を祈ったのであろう。

100隻もの船団のパレードともなれば、ご神輿船で権伝馬船を中心として、海上保安部や警察の各艇、誘導船、本部船、救護船、報道船、広報船など多数の役割を担う船が揃う。安全面はもとより編成や時間割など、その運営や進行には大変な困難があると思う。多方面の連携や協力が必要であり、祭が無事やり遂げられる事を祈らずにはいられない。

地域で生まれ育てられてきたこのお祭りは、時間の経過とともに形も整い、その歴史が重みとなり喝采を浴び感動を呼び、多くの観客を集めるようになったのである。私もホーランエンヤは大好きであるが、山本理事長さんも大変なファンでなかなか詳しいようである。これだけの規模の行事には莫大な労力と経費がかかり、伝統文化の継承は大変な苦勞が伴う。しかしこの努力や頑張り、伝統文化が次の世代に受け継がれて行く事は、地域の大きな財産であり誇りであると思う。



## 平成21年度 千鳥福祉会後援会総会を開きました。

去る5月11日(月)に平成21年度の総会を開催しました。平成20年度事業並びに決算報告、次期役員改選(全員が再任)、平成21年度事業計画と予算案の審議を行いました。会員総数171名中、出席者46名、委任状78名の124名の賛同を得てすべての議案が承認されました。

厚くお礼を申し上げます。

### ①H20事業報告 (H20.4.1~H21.3.31)

5月 9日 監事監査会  
5月13日 総会  
7月20日 千鳥福祉会サマーフェスタ2008 共催参加  
8月 6日 サマーフェスタ拡大反省会  
1月21日 理事会  
6月、1月 後援会便り発行

### H21事業計画 (H21.4.1~H22.3.31)

4月23日 座談会  
5月 9日 監事監査会  
5月11日 総会  
7月19日 千鳥福祉会サマーフェスタ2009 共催参加  
8月 7日 サマーフェスタ拡大反省会  
1月22日 理事会  
6月、1月 後援会便り発行



### ②H20 決算

【収入の部】				H21 予算	
費目	本年度決算額	摘要	予算額	本年度予算額	摘要
会費収入	734,500	法人会員 39社 個人会員124名	650,000	700,000	法人会員 41社 個人会員130名
雑収入	57	預金利息	150	100	預金利息
繰越金	75,588	H19繰越金	75,588	129,304	
計	810,145		725,738	829,404	

### 【支出の部】

費目	本年度決算額	摘要	予算額	本年度予算額	摘要
事業費	500,000	サマーフェスタ2008	500,000	500,000	サマーフェスタ2009
会議費	42,346	総会	60,000	60,000	総会
通信費	36,440	切手、はがき	41,000	40,000	切手、はがき
手数料	5,995	振込手数料等	6,000	6,000	振込手数料等
印刷製本費	81,006	後援会便り	80,000	100,000	後援会便り
雑費	10,000	香典	10,000	10,000	
予備費	0		28,738	113,404	10周年記念準備金
計	680,841		725,738	829,404	

※H20. 収支差額129,304円を後援会10周年記念準備金として次年度へ繰越



# 千鳥福祉会後援会座談会

企業も家庭も個々が意識改革を進めなければならない問題です。当日依頼した各社の皆様快く参加頂き時間を越えて意見交換が続きました。課題は広く多岐に亘り討議しきれませんでした。初めての出会いがあったこと、専門的な勉強ができたことなど有意義な会となりました。また、中国生産性本部の西川美佐子さんから「次世代エネルギーについて感じる」というテーマで寄稿いただきました。心のエネルギーを高めるという素晴らしいお考えを聞かせていただき感銘を受けました。本物が求められる時代、物事の本質を追及し生かしていくことが大切な時代に我々は目覚めなければと思います。

コーディネーター 松江土建(株)取締役会長 稲塚公郎氏

出席者 中国電力(株)島根支社 広報担当マネージャー 角田 敦志氏  
伊藤忠エネックスホームライフ西日本(株)松江営業所長 中村慶次郎氏  
米子ガス産業(株)取締役事業部長 豊嶋 文章氏  
(株)建築技術センター設計室長 大谷 智氏  
松江土建(株)社長付部長 田中 真氏  
島根電工(株)松江営業所取締役 澤田 淳二氏  
和幸電通(株)常務取締役 伊藤 立身氏  
安島工業(株)取締役工事部長 金山 昭徳氏



稲塚:「環境とエネルギー」の問題は、連日、新聞やテレビで議題になっているテーマでもあります。今日は、最初に電気、ガスなどを提供している3企業の方からご説明を頂き、その後、ご出席の皆様から自由にご発言を頂くという事で進めたいと思います。それではまず中国電力様をお願いします。

角田: 電力業界の現状等について話させていただきます。我々は大量のエネルギーを消費し、家事も含め労力を省力化し、その恩恵は知り知れませんが、また、家電の個電化(テレビ、ドライヤーなど)でさらに消費が増えています。世界のエネルギー消費の推移は日本を含む先進国が50%以上の消費、今後は中国を含めたアジア諸国で人口増加に伴い増えていく見通しになります。しかし、限りある資源です。有機論(2~3億年の経過で、草木が酸化して石炭が、動物の死骸などが液化して石油になる)によれば、採掘の可能性も含めて石炭の埋蔵量は約40年といわれます。そして、省エネを進めている現在もエネルギー消費は進んでおります。日本におきまして、昭和48年、54年オイルショックで省エネも叫ばれて、一旦は下がり傾向ですがその後産業用、民生用、運輸と増えています。民生用の増加はゆとりと快適さを求めるライフスタイルによるものです。そして、日本のエネルギー資源の自給率は4%、原子力、ウラン燃料を国産として計算しても19%です。食料の自給率40%程度とは比較になりません。

中でも利便性の高い石油はほとんどを中東からの輸入(90%)が占めております。しかし、政情不安、投機の対象となるなど非常に不安定であり、電気料金にも影響します。エネルギー消費と共に発生するCO2は温室効果ガスの要因となり、太陽の日射エネルギーを通すけれども、宇宙に赤外線を逃がすのを妨げます。しかし、温室効果ガスが全くなかったら、地球の平均気温は-18℃くらいになるそうですから適度な状況に保たれねばなりません。

今、日本のCO2の3割を電力会社が排出しており、電力会社も目標値を定めて削減に取り組んでいます。方法としては原子力の推進、LNGの利用拡大(4月、水島発電所は石炭をCO2排出量の少ないLNGに切り替えた)、火力発電の効率化、水力、太陽熱、風力の普及促進があります。使用面からみても、企業は省エネルギー化、CO2削減に一生懸命取り組まれています。自動車業界の

しぎを削った取り組みはご存知のことと思います。今後求められるのは家庭用、民生用のエネルギーをいかに減らしていくかであろうと思います。そして、CO2削減の面で非常に効果のある新エネルギー(太陽光、風力等)についてですが、設備投資や運営費に差があるのはご存知だと思います。また、系統連携という課題があります。供給会社としては電圧100ボルト、周波数60キロヘルツという良質な電力を送りたいのですが、風力、太陽光は生み出す電気を一定に保つことが難しく、当社の送電線や配電線、100ボルト、60キロヘ

# テーマ「環境とエネルギーの取り組み」

座談会は初めての企画ではありますが、我々会員が日頃感じている身近な問題について共に学び交流を深めることとは意義あることと思います。更にこの後援会活動が福祉事業を通した社会貢献となればこの上ないことでもあります。今回のテーマは、人類にとってまさに死活問題であり、

ルツを維持するための調整が必要となり、その設備の運営に厳しいものがあります。また、電力の安定提供のベースにはなりにくいのが現状です。しかしながら、新エネルギーは環境に優しいものであり、導入目標を掲げ進めています。現在島根県の風力発電設置状況は約3万キロ、太陽光の設置状況も伸びております。当社のPRになります。原子力開発を3基(1基は島根原子力3号機、残り2基は山口県上関)計画しております。完成しますと、90年代と比べCO2は5割程度減ることとなります。そのほか、バイオマス発電、廃棄物発電なども実証試験中です。

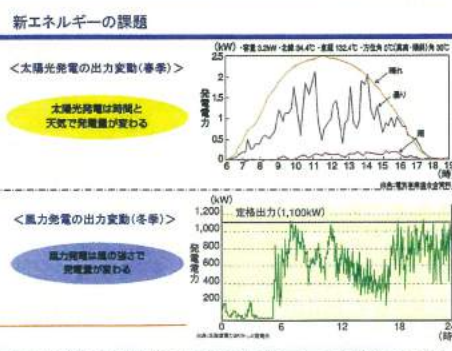
稲塚: では次に伊藤忠様、宜しくお願いします。  
中村: LPガスの現状と環境への取り組みについてお話を頂きます。去年は燃料の異常な高騰、中でもLPガスにおいては、サウジアラビアのCP価格が最高905ドル、とガス業界が今だかつて経験したことのない事態となりました。今、多少落ち着いて来たとはいえ、LPガス業界は非常に苦しい状況です。この状況下において、消費者にとり高効率、省エネという器具は人気が高く、ガスの消費量に拘らず、省エネ器具を提案しなければお客様を守ってはいけません。しかし、その提案が受け入れられても、皮肉なことにガス業界にとりましては、LPガス直売のトン数が減っていくこととなります。

そして、特に島根県の場合、少子化・高齢化問題があり、山間部の方で高齢化が進むと、子供さんに引き取られ、家を取り壊すという現状があり、ガス業界にとり非常に苦しい状況です。その上更に厳しいのが、電化離脱の増加です。消費者の方が自ら決められる電化についてはどうにもならないと半分諦めという状況もあります。ガス業界としてはこの電化を少しでもくい止めようと、ガスの良さについてお客様とお話ができる場を、良い提案ができる場を積極的に作ろうと努力しています。

そして、ガス業者ですので、ガス売ることもちろんですが、ガスだけ売って時代ではもうないのではないかと、エネルギーにかかわるといことで、私共も環境とエネルギー、特に環境問題(ソーラー発電)に取り組んでいます。但し、ソーラー発電はコストがまだ非常に高いですから、簡単にはお客様に受け入れて頂けません。しかし、ガスのイメージを変え、エネルギーについての提案ができる関係を作り、その中で、ガスの熱効率の高さや省エネ、安全対策を理解して頂く。そんな話がお客様とできるようになろうと取り組んでいます。従業員、特に若い従業員は電化離脱が時代の流れだという感覚で受け取っています。私共は若い従業員に、お客様と一体になり、環境問題、新エネルギーへ取り組んでいくことをガス業界全体で考えようと呼んでいます。ガス一つに囚われず、次世代を考え色々なことに挑戦していかなければならないと思っています。

稲塚: 続きまして、米子ガス産業様お願いします。  
豊嶋: まず、私共の都市ガス供給業は、経済産業省から認可を頂いた区域内でしか事業が出来ません。こちらの経済圏になります。松江市のガス局様が私共と同じ内容の営業をしておられます。私共の供給エリアは、東は日野川、西は米子市河崎、北は皆生温泉、南は安来との境までです。公益事業でもあり、国から厳しく言われておりますが、「利益より安定供給」「お客様の利便性を担保し、安全を守りなさい」ということで、それに基づいて供給約款を作成し、国から認可を頂き事業を行っています。

ソフトにつきましては、都市ガスが先程のエリアの中で約1万4千件、LPガスを約6千件、合計2万件に都市ガスとプロパンガスを供給しております。また、ガスの総延長は294km(鳥取-米子間1往復半)になり、歩道の中に埋設されています。そして、国の厳しい保安体制のリクエストを受けて365日24時間体制をとっております。更に消防ホットラインがあり、行政とタイアップして火災に対して緊急出動体制をとっています。また、取り組みの中で対応していかなければならない地球温暖化問題ですが、CO2、NOx(窒素酸化物)の排出量の少ない原料にソフトということ、天然ガスへの転換が済み、3年程度が経過しております。私共にとっては、安定供給をすることが大命題です。その点で、自然エネルギーというのは非常に不安定であり、供給のコアとしては選択しにくく、あくまでも補完的なエネルギーとして位置づけてお



ります。但し、消費者に供給すべきものは、エネルギーのベストミックスで取り組むべき、というのが当社のスタンスです。御使用になるお客様の立場に立って、ベストミックスを御提案できる総合エネルギーコンサルタントを目指しております。次に都市ガス業界全体の取り組みとして、環境の負荷を減らすために、電気のピークをできるだけカットする。エネルギー業界全体でバランスを保つ「ガスコージェネレーションシステム: ガスでタービンを回し、電気と熱を送るシステム」がござります。今後このガスコージェネレーションシステムを進め、最終的には一般家庭に普及するシステムになればと考えています。そのほか、燃料電池にも取り組んでおります。これは、ガスから水素を取り出し、空気中の酸素と反応させ、電気を作り出す際の排熱を利用し空調や給湯を行う商品です。非常に触媒に苦勞を要して、ようやく市場販売となりました。今、東京ガス、大阪ガスが中心になりまして、これを売り込んでいくところでございます。最後にありますが、私共が昨今会社の社会的責任をきちんと果たしなさいよという方針の基、ボランティア活動に取り組み、またISO14001を取得しております。

稲塚: 大変幅広い範囲で御説明を頂きましたが、御質問、御意見を願います。  
田中: エネルギー全体でのベストミックスというお話がありましたが、それぞれのエネルギーの活用法、特徴があればお聞かせいただきたいのですが。  
角田: エネルギー全体でのベストミックスという点では各社で認識が異なるかもしれません。電力で言えば原子力、火力、水力などの電源を組み合わせ、それぞれの長を生かした最適な運用、組み合わせをベストミックスとしています。  
豊嶋: 人間に長所、欠点があるのと同じように、エネルギーにも得手不得手があると思います。長所をミックスして御提供するのが、エネルギー会社の責任であると思います。

中村: 私共はエネルギーの活用法を実際にお客様に会い、一緒に考え、ベストなものを選ぶのが一番良いと思っています。勿論、私共はガス業界ですから、ガスのアピールをしたいです。チラシを配ったりするだけでは効果がありません。  
田中: 現在御利用のお客様からアンケートや将来的な考えを聞いたりされているんですね。  
中村: 勿論しております。今、どこも通信でメーター検針されていますが、当社では担当者検針で直接お客様の声を聞くようにしています。

伊藤: 天然ガスコージェネレーションシステムという説明がありましたが、将来的にはガスで電気をおこなすのでしょうか。  
角田: 既に大きな生産工場等で運用されています。これはガスの小さい発電所を設け電気やお湯等を作るものです。  
田中: 大企業等が広い敷地内で使えば、敷地内で消費するため電柱が不要となります。  
中村: ガスのエコウィルというシステムは、屋間お湯を使い、そのことにより発電させる。そして蓄電し夜使用する。ただ、これはまだコストが高い上に余った電気を売電することが出来ない。その点ソーラー発電であれば売電が可能です。エコウィルとソーラー発電を合体させれば売電が可能ではないかということが今議論となっております。

稲塚: 家庭で発電させた電気(太陽光)を売電することは、今後進むものですか。  
角田: 今政府は、電力会社に対して買い取り価格を2倍程度にするようにしています。1kWhおよそ25円を50円です。ただ、その25円の負担を一般のお客様から頂く動きですが、太陽光のシステムをつけない方も負担するのかもしれない議論があります。  
澤田: 私共は太陽光を売る立場ですが、普通の人が考えると太陽光で発電したものを自分の所で使い、余ったものを売電するという感覚になります。しかし、現実には発電したものを中電様の送電線に流し、それを買い取ってもらいペイを頂く。自分のところで使うのはどちらかと言えば夜ですから、それは中電様から買わせて頂くということ、現実には買い取ってもらえる保証があるから成り立つ。よく中電様に、風力発電、太陽光発電がどんどん増えていけば安定供給できるのかと聞くのですが、やはり増えすぎると基幹が崩れる問題があるということです。  
角田: 単独で使われるのであれば全く問題はないのですが、天気が良い時は電力が一気に上がり電力会社は周波数を落としたりしなければなりません。それは風力も同じです。  
金山: 一般住宅で太陽光発電の家がありますが、メンテナンスの面はどうでしょうか。



中村: パネルは、30年は心配がいりません。但し、直流を交流にかえる装置(太陽光で発電したものは直流の為、それを使用するには交流に変換しなければならない)の耐久寿命の数値が確定できていません。その装置の費用は結構かかります。  
稲塚: 国は環境対策として補助金等をだしていますが、設計される立場から環境問題の工夫で推奨されている点がありますか。  
大谷: 施主様には用途により、ガス、電気と効率の良いものを考え、省エネルギー機器を提案しております。  
澤田: 今注目なのは、個人住宅などをどう省エネルギー化するかということではないでしょうか。省エネルギーのエアコン、テレビ、冷蔵庫等を購入すると、政府から価格の5%~10%のエコポイントがつき、何かの形で還元するという発表がありました。私共会社の取り組みとしても、個人の住宅に訪問させて頂き、省エネルギー化を広めるのが一つのポイントになると考えております。

稲塚: 今のエコポイントに関連して、クレジットという制度があると思えますが。  
角田: 色々あります。例えば、現在の空調を省エネルギー化の設備に替えると、削減されたCO2排出量分を買い取らせていただくクレジットがあります。一般の企業から買い、国の定めるCO2排出量の目標に向かって努力をしているところです。  
稲塚: 先程、原子力、太陽光、風力と比較表がありました。その中に、原子力発電に必要な敷地面積として、島根原子力発電所の場合約2km<sup>2</sup>とあります。それに対して、風力発電の場合約214km<sup>2</sup>と広大な敷地面積が必要と書いてあります。  
角田: 風を受けるためには、一つ一つをかなり離して設置しなければならない。そのため、広大な敷地面積が必要となるわけです。  
稲塚: それから、日本における主な新エネルギーの導入実績と目標があります。新エネルギーの比率はこの程度でしょうか。

角田: 中国電力においては、太陽光発電や風力発電をあわせて、全体の1%です。島根県に限れば、0.8%です。  
伊藤: 中国電力様にお聞きしますが、山陽で燃料電池を研究開発されている部署がありますが、完成に至りましたか。  
角田: まだ研究途上です。コストを含め実用というレベルにはは到っていません。  
伊藤: ということは水力、火力等に並ぶ発電装置には到らないのでしょうか。  
角田: ベースとするのは難しいです。過去の個別発電単価の実績では、1kWh当たり原子力は5.3円、石炭は10.7円、LNGが6.2円、石炭が5.7円、そして水力は11.9円程度、太陽光は数値にしにくい面があります。水力は大きい設備に對して生み出す電力が小さいため結果的にコスト高になります。コストは電気料金に反映します。安くかつ安全な電気を御提供することが私共の責務です。

稲塚: 太陽光や風力は、自然に左右される面があり一概に比較できない。単価で言えば、太陽光や風力は高いですが、環境のためには仕方がない。コストを負担してでも環境を維持しなければならない、ということになるのですね。  
角田: それから余談ですが、広島ガス様が家庭用燃料電池を販売する記事がありました。コストの問題があり普及するかどうかは別として、技術的には燃料電池の販売が可能となっております。  
田中: 鳥取ガス様も家庭用燃料電池を公開、本体価格310万円、システム耐用年数は10年、国の補助金140万円という記事がありました。エコキュートや太陽光にも補助金制度があると思いますが。  
中村: 太陽光の場合、地域行政で補助金の有無、交付額が異なります。松江市は補助額が多いようです。

稲塚: 資源には限りがあるという点で、水素は地球上いたるところにあります。有効利用できないでしょうか。  
澤田: 先般、5千万円の自動車という話題がございましたが、角田: 水素の開発にはエネルギー各社がそれぞれに力を入れて取り組んでいます。取り扱いやコスト面で難しいですね。  
大谷: スタンドの役目を果たす水素ステーションにも莫大な設備費用がかかります。

稲塚: 大変有り難うございました。初めての企画でしたが、ディスカッションをするということにより環境問題に対して認識を新たにされたところでございます。大変に有意義であったと思えます。本日は有り難うございました。



(文責 松江土建(株) 糸原資也)